

トマトの価格高騰について

トマトの価格高騰について

トマトの価格が6月下旬より高騰している。これは、6月の主産地の栃木産が震災の影響で定植が遅れたことから、生育が1週間～10日間遅れ、下旬は少なめの出荷量で推移したことに加え、また、出荷の終盤を迎えた千葉、茨城産も5月の曇雨天の影響により6月は少なめの出荷量となったことによる。

一方、7月から本格化する東北産が4月～5月の低温、震災等による作業の遅れから生育が1週間程度遅れ少なめの出荷量になっている。

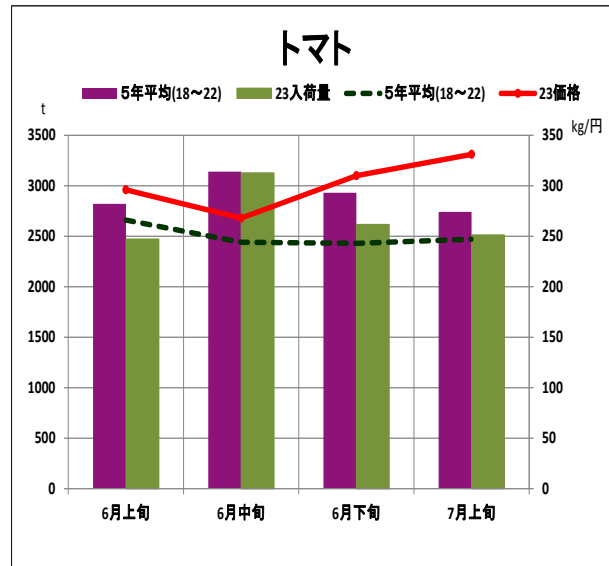
夏秋トマトの作付面積としては、前年並みであり、今後は生育も回復し順調な出荷が見込まれることから、価格は徐々に落ち着いてくると見込まれる。

節電の夏が本格化する中で非加熱食材としてのトマトをあらためて注目したい。

トマトの旬別卸売価格と入荷量の推移

(2011年6月～7月上旬)

東京都中央卸売市場



資料：青果物情報センター

主産地

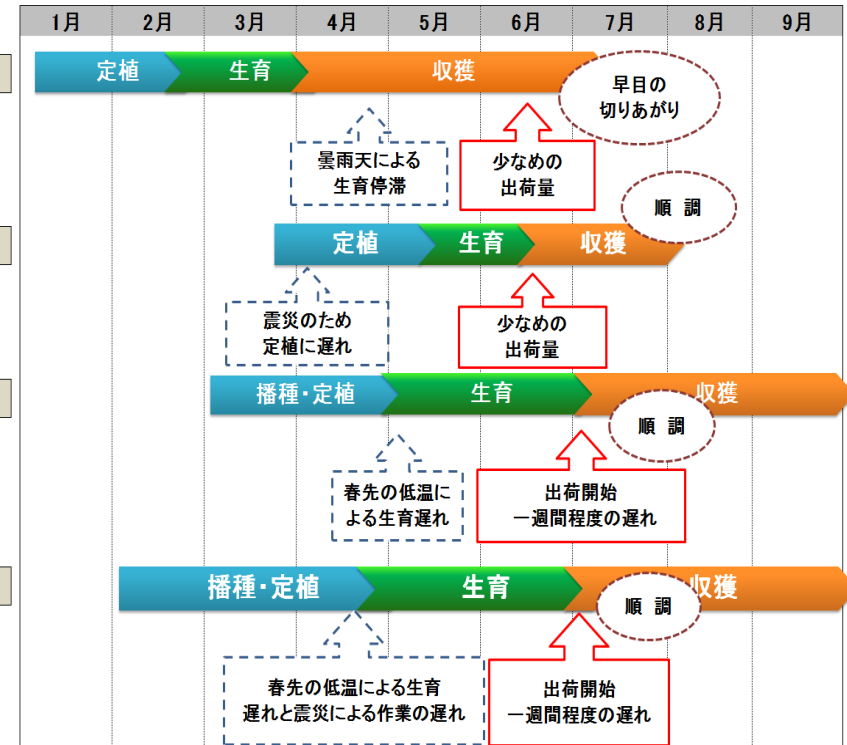
茨城・千葉

栃木

青森

福島

トマト主産地の生育ステージ



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484

◆「野菜需給・価格レポート」は月2回公表しています。公表日にメールにてお知らせしますので、ご希望の方はページ探のお問い合わせから <https://www.alic.go.jp/form/vegetan.html>

★野菜ソムリエの旬ナビゲーション「ベジシャス」 http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000076.html